

令和 6 年度 第 3 回豊田市文化芸術振興委員会 会議録

○日時

令和 7 年 2 月 13 日（木） 午前 10 時 30 分～正午

○場所

東大会議室 4（豊田市役所東庁舎 7 階）

○出席者

（委員）※敬称略

- ・高北幸矢（委員長）、高橋秀治（副委員長）、藤田雅也、石黒秀和、伊丹靖夫、磯村美沙希、石川紀子、中佳子

（関係課）

- ・スポーツ振興課 | 太田主幹
- ・博物館 | 鈴木副主幹
- ・美術館 | 塚田副主幹

（事務局）

- ・生涯活躍部 | 曾我副部長
- ・文化振興課 | 相田課長、藤野副課長、西村担当長、志村主査

○傍聴者

なし

○要旨

曾我副部長あいさつ

まちづくりの羅針盤となる第 9 次総合計画が令和 7 年度から始まる。こども起点の取組推進のほか、文化芸術によって豊田市の魅力を創造していくことが求められる。今回は、第 3 次豊田市文化芸術振興計画の骨子（案）を作成した。委員の皆様から忌憚ない意見を伺いたい。

議題 1

第 3 次豊田市文化芸術振興計画の策定について【資料 1 - 1 ～ 1 - 5】

委員

- ・文化は環境に起因すると思う。文化の中でもまちの景観の影響は大きい。文化ゾーンは、景観に配慮し、魅せる整備をしていくことが大切。
- ・文化活動者にどういった支援をしてきて、どんな成果となっているかという視点の評価も必要。

事務局

- ・支援がどのような成果となっているのか追っていくことは大切。活動者とともにコミュニケーションを取っていく必要がある。

委員

- ・資料が丁寧にまとめられており、総括も分かりやすかった。
- ・めざす姿で「人から人、大人から子どもへ、その価値が伝わっている」とあるが、価値とは文化芸術そのものだけではなくて、今回示されたアンケート結果等や総括を市民に発信したり還元したりしていくことも、価値を伝えることであり、市民と文化の接点をつなげることになるのではないか。
- ・総括が大人向けの文章で書いてあるが、こどもの視点に立って大事なことが書かれている。資料の内容を基に、こどもが読むための報告書を作成し、広くこどもたちに見てもらったり、読んでももらったりすることによって、こどもから豊田市でこんな企画をしてほしいなど声が上がってくれば、好循環になる。

委員

- ・基本施策4（1）「魅力的な文化施設の整備」が大切だと思う。行きたくなる・使いたくなるとあるが、市民がふらっと気軽にいける施設であることが必要だと感じる。例えば豊田参合館1階にフリーピアノがあるが、周りにカフェや座れる椅子があり気兼ねなく過ごせる場所である。小さな舞台など、いつでも誰でも発表できる場があると良い。
- ・市民クラシックコンサートのような習い事の成果を発表できる場が、こどもたちにもあるとよい。ダンスや歌なども合わせたそういう場があると、こどもたちも頑張る気持ちが高まるだろう。そういった取組が、結果として豊田市の文化を活性化することにつながる。

委員

- ・こどもだけではなく、こどもの周りの大人たちの意識や行動に対してアプローチする視点が加わったことは重要で、とても良い。
- ・親自身が文化芸術にどのように触れたらいいかわからない人が多い。美術館へ行ったことがない人は、こどもを美術館に連れていこうとはならない。美術館に行ったことがある人が、周りの人にその面白さを伝えていくことが大切ではないかと考え、月に1回美術館に行こうサークルを作った。アンケート結果で「こどもが興味を示すものが少ない」とあるが、親自身が文化に興味がないからではないか。親が文化の面白さを知れば、こどもにも伝わっていく。

委員

- ・進もうとしている方向に異論はない。
- ・豊田市の持っている地域性、風土とも言えるが、外からの文化、外国も含めて、それをどう取り込んでいくかという視点は必要。豊田市がこれだけ大きくなってきたのは、他県や海外からの文化を取込みながら、豊田オリジナルの文化をつくってきたということもある。内向きではなくて、開かれた文化施策を取ってきたと思うが、これからも続けていくべきである。目指す姿にもそれが込められていると思う。
- ・豊田「市民」にこだわりすぎると、本来豊田市が目指そうとしているもの、豊田市の良さが消える可能性もある。地元固有の文化と外から入ってきた人がつくり上げた文化、外国の方の多様な文化も含めたすそ野が、さらに発信されていくことが豊田市の良さ。

- ・この計画はいいと思うが、一步間違うと内向きになりかねない。市外料金制が始まったが、市外の人で豊田市でものをつくっている人、市外から観に来る人、そういった人を受け入れて豊田市はいろいろなものをつくり上げてきたはず。そういったところに若干の内向き感を感じるので、見誤らないようにしてほしい。

委員

- ・美術館でも、必ずしも豊田「市民」だけを対象にしていない。アンケート調査をみると来場者数の4分の1程度で、半分くらいが県内からで、残りは県外の遠いところから来ている。外からこれだけ多くの人 coming いることが、豊田の文化の存在感を高めている。そういった視点も計画の中であっていいのではないかと思う。
- ・第3次計画骨子案で一番重要なことは、「関わりしろ」という言葉だと思う。これがキーワードかと思うが、学校教育との関わりが見えてこない。博物館ができて博学連携ということで、小中学校の利用が増え、美術館も一緒に鑑賞してもらえることが多い。その中で、今年度初めて茶室利用を行い、評判がよかった。日本文化を体験する機会も少ない。
- ・基本施策1（2）に博物館は、入れるべき。

議題2

部活動の地域移行について【資料2-1、2-2】

委員

- ・事務と指導を別にしたのがよい。地域指導者は指導に専念できる。
- ・地域指導者の参加状況を見ると、吹奏楽部ではコンクールで強いチームは指導者も多いと感じる。中学校のOGOBの学生が、母校の吹奏楽部が無くなったら困るという事で指導者になっている。
- ・参加するこどもたちから参加費を少し徴収してもいいのではないかと、個人的には思う。その分、指導者の賃金を少し増やしてもよいのではないか。

委員

- ・研修プログラムは指導責任者・指導補助者ともに対象か。
- ・地域サポーターはどうか。閉じられた環境でこどもに近い形で関わることになるので、ハラスメントの部分が一番気になる。

事務局

- ・指導者は区分に関わらず、全員受けてもらう。
- ・地域サポーターは無償ボランティアとなるため、研修を必須にすることは難しいが、ご指摘いただいた懸念の対策として案内はしたいと思っている。

委員

- ・トラブルはどんな場合でも起こりうるので、その都度修正や見解を示していくことが大切だと思う。

委員

- ・新種目が提案できる余地があるのがよい。
- ・9本ある研修動画を見させてもらったが、内容がとてもよい。指導者だけでな

く、保護者や子どもたちにも見てもらえるとよい。一般公開してもよいと思う。市が独自に作成した動画を視聴するなど、きちんとした研修を受けた人が指導者になっていることは、国内においても先進的な取り組みになると思う。

- ・研修を受けた人には簡単なレポートを書いてもらってはどうか。

事務局

- ・研修動画は一般公開する。
- ・指導者は研修を受けたあと簡易テストを受けてもらう。

委員

- ・小学生の環境整備とあるのがありがたい。
- ・放課後児童クラブに通っている児童は多いが、その時間でこういったクラブ活動・体験ができると喜ぶ親も多いのではないかな。
- ・活動の機会が減っているのだから、子どもたちの体力や運動能力が低下してきていると感じる。
- ・指導者が2人では毎週出ないといけなくて大変なので、指導者が8人くらいいると月に1～2回になり、働いている人も参加しやすいのではないかな。

事務連絡

事務局：次回開催は令和7年6月頃を予定。

以上